

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2023(令和5)年

仏暦2566年

2月号

(第137号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホツがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』

法住 話職

「捨てる」ことの難しさ

法蔵菩薩因位時
在世自在王仏所
法蔵菩薩の因位の時、世自在王仏の所にましまして

「現代語訳」
法蔵菩薩の因位のときに、世自在王仏のみもとで、

正信念仏偈は、大きく二つの段に分けられます。先ず前半は「依経段」と言われ、お釈迦さまの説かれた『無量寿経』というお経に依るところを述べてあります。そして後半は「依釈段」と言われ、その『無量寿経』の教えを受け継がれた七人の高僧(七高僧)方々の釈に依るところを述べてあります。そこで、しばらくは『無量寿経』に説かれたお心を述べていきます。

今月の一行は『無量寿経』現代語訳によりますと、そのときひとりの国王がいた。世自在王仏の説法を聞いて深く喜び、そこでこの上ないさとりを求める心を

起こし、国も王位も捨て、出家して修行者となり、法蔵と名乗った。後に仏となり阿弥陀仏となられるわけですが、その前の菩薩の位で法蔵と名乗っていました。すでに仏と成られていた世自在王仏の説法は、何もかも捨てられるほど深く喜びを与えられた教えだったのでしょうか。

前に戻りますが、親鸞さまも正信念仏偈をお書きになるに当たって、喜びに満ちた胸中を表されてきました。その親鸞さまのお心も、何もかも捨ててよいほどの素晴らしい教えに出遇われたからでしょう。

どちらも「捨てる」という行いが重要になっています。しかし、私たちにはとても出ることではないです。何かを手に入れることばかりに一生懸命で、苦しみもがいています。真実なるものを求めるには、「捨てる」ことがなくては得られないということですから。そこで、捨てることの出来

ない私のために、法蔵菩薩は願いをおこされ修行をして仏と成られたのでした。この一実真如の大宝海からすがたをあらわし、法蔵菩薩と名乗られて、何ものにもさまたげられることなく衆生を救う尊い誓願をおこされた。

親鸞さま『一念多念証文』現代語訳にも述べられています。

そして、法蔵菩薩は世自在王仏に向かい四十八にもわたる願を述べられたのでした。四十八願と言われ、中でも十八番目の願を本願と言います。現代語訳です。

わたしが仏になるとき、すべての人々が心から信じて、わたしの国に生まれたいと願ひ、わずか十回でも念仏して、もし生まれることができないようなら、わたしは決してさとりを開きません。ただし、五逆の罪を犯したり、仏の教えを誇るものだけは除かれます。これは、浄土真宗では最も重要視する願です。

浄土真宗 新 仏事のイロハ

三、お墓と納骨

―亡き人を偲ぶ縁として―

「本廟への分骨」

遺骨の一部は大谷本廟へ納めよう！

主に関西では、亡き人の遺骨は胴骨と本骨（喉骨・喉仏とも言いいます）に分けて、それぞれ大小の骨壺に入れられます。一般に、胴骨は家のお墓などに納めるのですが、本骨については、宗祖親鸞聖人の御廟である大谷本廟に納める習慣が広く行きわたっています。また、胴骨の一部を分骨して納める方もおられます。

親鸞聖人を慕い、その聖人の教えをこの私に伝えてくださった亡き人の遺徳を偲ぶ上でも、大谷本廟への納骨は、よき仏縁になることでしょう。

一つの骨壺に胴骨と本骨を

一緒に入れられる地域の方でも、その一部を大谷本廟に納められることをお勧めします。

この大谷本廟での納骨には「祖壇納骨」と「無量寿堂納骨」の二種類があります（墓地もありですが…）。祖壇納骨は、「明著堂」奥にある親鸞聖人の墓所近くに納めるもので、一旦納めると遺骨は戻ってきません。無量寿堂納骨は、個別の納骨所に納めるもので、これには手次ぎのお寺（所属寺）名義のものであれば、そのお寺の許可証が必要になります。また個人名義で使用されている納骨所であれば、個々に納骨届を提出す

ると納骨できます。初めての方は、一度お寺に相談されるとよいでしょう。

ところで、遺骨を納めるお墓がなく、これからお墓を求めようという方は、それが短期間であれば、お仏壇の中か、脇に台を設けて仮安置しておいても差し支えないでしょう。しかし、一年以上とか、目途が立たない場合は、お寺で預かっていただくなど、住職に相談されるとよいでしょう。

そのことによってお寺との縁も深まり、聞法の機会が増えることにもなりましょう。そんな気持ちで預かってもらうのです。預ければなしにならないよう、くれぐれもご注意ください。

なお、納骨する日に良し悪しはありません。こだわらずに…。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より」



年忌法要表

1 周忌	2022 (令和 4) 年	23 回忌	2001 (平成13) 年
3 回忌	2021 (令和 3) 年	25 回忌	1999 (平成11) 年
7 回忌	2017 (平成29) 年	27 回忌	1997 (平成 9) 年
13 回忌	2011 (平成23) 年	33 回忌	1991 (平成 3) 年
17 回忌	2007 (平成19) 年	50 回忌	1974 (昭和49) 年

編集後記

編集をしながら思ったことがあります。正信念仏偈をもとに「住職法話」を進めていますが、度々に同じことの繰り返しになる場面がありそうです。今回は、本願についてもふれましたが、繰り返しになることをご承知ください。◆ 一新しましたが、ご感想などお寄せ頂ければ幸いです。

南無阿弥陀仏